

成田記念病院で処方された医薬品における後発品への変更状況調査

○門井 実¹, 石田 景¹, 直原 郁美¹, 高木 美那¹, 定盛 理純¹(¹成田記念病院薬局)

【目的】成田記念病院（以下、当院と略す。）では平成 14 年度より院内採用医薬品の一部を順次後発品に変更し、平成 20 年 4 月からの処方せん様式変更においては、原則全て変更可として院外処方せんを発行し、後発品の使用を推進してきた。しかし、後発品に関する情報は少なく、一部の医薬品については有効性や安全性に対して問題があるのではないかという意見もある。そこで今回、後発品の使用状況を確認することを目的として、当院で処方された医薬品における後発品への変更状況調査を行った。また同時に、当院より銘柄指定された後発品に対する変更状況についても調査を行った。

【方法】平成 20 年 4 月から 9 月までの 6 カ月間に発行された院外処方せんの内、保険薬局から当院薬局へ報告されたもののみを調査対象とし、薬効別に分類した。なお、この期間に同じ患者で同じ後発品への変更が複数回報告されても 1 回のみの変更として集計した。また、後発品の銘柄変更についても同期間報告されたものを調査対象とした。

【結果】6 カ月間に院外へ発行された処方せんは 59650 枚で、後発品に変更報告された処方せんは 216 枚 (0.36%)、薬品としては 70 品目 246 回変更された。この内、内用薬は 57 品目 200 回、外用薬は 13 品目 46 回変更され、薬効別では高脂血症用剤が最も多かった。また、後発品の銘柄変更は 18 品目 44 回変更され、解熱鎮痛消炎剤が最も多かった。

【考察】後発品への変更状況や、一部ではあるが問題点についても確認することが出来た。医療機関が率先して後発品の使用状況を調査し、結果を評価することも、その有効性や安全性の確保に必要ではないかと思われる。